

## 2025年度

岡山大学 学校推薦型選抜 I (大学入学共通テストを課さないもの)

### 入学試験問題

#### 小論文

(教育学部 岡山県北地域教育プログラム選抜)

#### 注 意

- 1 問題用紙は3枚(A4判)、解答用紙は1枚(B4判)、下書用紙は無地1枚、マス目2枚の計3枚(A4判)です。
- 2 試験中に問題用紙の印刷不鮮明、落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等により解答できない場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
- 3 解答用紙に、受験番号を記入してください。
- 4 解答は、すべて解答用紙の指定されたところに書いてください。
- 5 配布した問題用紙、下書用紙のホッチキス留めをはずさないでください。
- 6 解答用紙は裏面使用不可です。
- 7 試験終了後、問題用紙と下書用紙は必ず持ち帰ってください。

問題1 次の資料Ⅰ、Ⅱを読んで、設問1、2、3に答えてください。

資料Ⅰ

都市部に住んでいるか地方に住んでいるかの違いによって、子どもたちの「体験」の機会に、どれほどの格差が存在するのだろうか。

(中略)

今回の調査(\*)では、回答者が住む都道府県を聞いている。そこで、既存の社会調査にならい、三大都市圏(東京、千葉、埼玉、神奈川、愛知、京都、大阪、兵庫)を「都市部」とし、その他の地域(非三大都市圏)を「地方」として、調査結果の集計を行った。

(中略)

都市部と地方とでは、「体験」への参加率よりも、支出額における格差のほうが大きい。なぜだろうか。一つの仮説として考えられるのは、都市部のほうが地方よりも様々な体験の価格が高いのではないかということだ。

調査からは、都市部のほうが地方よりも、企業など民間事業者が運営する教室やクラブに通っている子どもの割合が高いことがわかった。休日に行く自然体験などでも同様だ。

逆に、地方では、都市部に比べて、地域や保護者のボランティアにより運営されている活動に参加している子どもの割合が相対的に高くなっている。

都市部のほうが地方よりも、体験の「提供者」における民間事業者の割合が高く、それゆえそこにかかる費用が高くなっている可能性があるだろう。

ただし、「体験」に関わる費用の中には、地方のほうが都市部よりも負担が大きいものもある点を見逃してはならない。その一つが、移動にかかる交通費の問題だ。

(中略)

都市部からの距離が離れるほど、試合や発表会に参加するための交通費や引率の負担が大きくなってしまふ。

都市部と地方の間にある体験格差の実態を把握することに加え、都市部にありがちな阻害要因、地方にありがちな阻害要因を、それぞれ見ていく必要もあるだろう。

出典：今井悠介「体験格差」(一部改変)

\*：「子どもの『体験格差』実態調査」(チャンス・フォー・チルドレン，2022年10月)

資料Ⅱ

以下の図表は、公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン「子どもの『体験格差』実態調査 最終報告書」よりデータを引用して作成したものです。

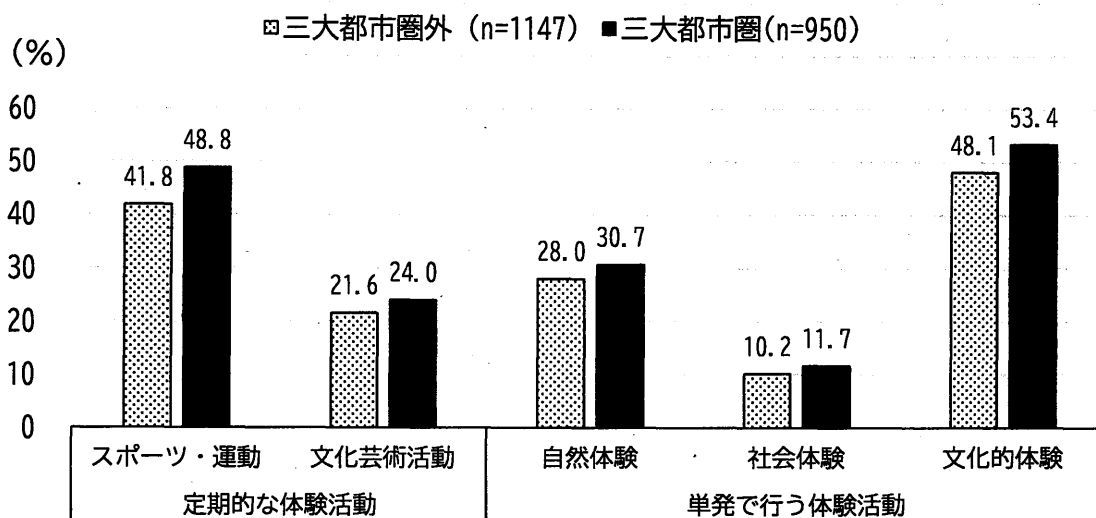


図 学校外の体験に参加している子どもの割合(居住地域別)

表 子どもの体験活動への年間支出額(内訳)

単位：円

	定期的な体験活動		単発で行う体験活動		
	スポーツ・運動	文化芸術活動	自然体験	社会体験	文化的体験
三大都市圏外 (n=1147)	23,160	14,220	4,482	726	6,383
三大都市圏 (n=950)	41,650	15,867	9,125	1,190	8,866

対象者：小学1年生から6年生の子どもがいる世帯の保護者

調査期間：2022年10月12日～10月14日

調査方法：インターネットアンケート調査会社のモニターを利用したWEB調査(全国調査)

有効回答数：2,097件

設問1 「子どもの体験」について、資料Ⅰ、Ⅱより、読み取れることをあげてください。

設問2 都市部のほうが、地方より「体験」への参加率がやや高い理由について、あなたの考えを述べてください。

設問3 設問1、2で解答したことをふまえて、岡山県北地域の教員としてあなたが大切にしたいことを、400字から450字以内で述べてください。